



2024

今年もよろしくお願ひ申し上げます

理事長挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆さまならびに関係者の方々には変わらぬご支援をいただき、深く感謝を申し上げます。お陰様でぱれっとの事業も41年目に入りました。

コロナウィルスが昨年5月から5類感染症に移行したことで、ようやく私たちの生活も普段通りとなり、緊張感の取れたあたり前の生活が送れるようになりました。たまり場ぱれっとの行事活動や野外イベントも制限がなくなり、おかし屋ぱれっとの注文も戻り活気に溢れた年となりました。一時集団感染も広まりましたが、大事には至らず無事にやり過ごすことができています。法人全体としては大変充実した年となりました。

昨年発足させた理事会活性化委員会では、理事の方々に具体的且つ直接的に現場に寄り添う形で関わっていただきました。一つに、会員の減少に対処するため会員拡大委員会に協力を仰ぎ、企業の顧客獲得のノウハウを会員増のための戦略に転換し様々なアイデア出しに貢献していただきました。委員会にはセクションを超えて現場スタッフも参加し、会員になってもらうためのセールストークやチラシ作成など、具体的な動きについても検討を重ねました。法人全体の予算執行においても、普段の仕事で会計に携わる理事の方に、補助金の扱いやNPOのお金の流れをより理解していただく機会づくりに努力しました。人材教育・育成の面では、実際に職場で人事担当をされている理事の方にメンター（※）として直接現場に入り管理職に面談を行なうなど、第三者的な立場でヒアリングを行ないながら職場での心理的安全性の構築に向け協力していただきました。

ぱれっと親の会から、通所員の通勤途上に災害が発生した場合の安全確保について提案がありました。家庭や職場で災害が発生した場合は公的施設に二次避難場所として指定がありますが、どこの作業所でも通勤時の安全確保については触れられていません。3.11の経験から、職場での対応は想定されますが、通勤途上ではどのように本人の安心安全を確保するか、親の会も巻き込みながら震災対策委員会を発足させました。ぱれっと単独で解決していくには非常に難しい課題です。災害の知識を持つ専門の団体と連携しながら今年は勉強会を開く予定です。

今年の抱負は、阪神タイガースが掲げ優勝につながったスローガン「A.R.E」を年頭に進んで行く年にしたいと考えています。それぞれが目的・目標を持ち、敬意・関心を抱き、可能性を引き出す、目の前の事に実直に取り組む姿勢を大事にしていきます。

A : Aim (目標) R : Respect (敬意) E : Empower (自発・力) (理事長 相馬宏昭)

※メンターとは・・・指導者や助言者、相談者などを意味する言葉で、対話や相談、助言を通じて対象者をサポートする者のことを言う。





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局 ▶

あけましておめでとうございます。事務局にとって2023年の最も大きな出来事は、5年に1度の認定NPO法人の更新作業が無事に終わったことです。3月に更新の申請を出し、9月に東京都からの現地調査、その前後の細かな指摘に対する対応などを経て、11月7日に無事に更新通知を受け取りました。コロナ禍に伴う活動自粛の中で、この数年は皆様に寄付をお願いする機会も少なくなって、基準のクリアに大変苦勞しましたが、2028年の次回更新まで、無事に資格の延長が出来ました。皆様のご協力に改めて心より御礼申し上げます。私的なことに目を向けますと、当会の規程に基づく自分自身の定年が現実のものとなって来ました。今後の組織の展開、次世代への橋渡しなど「未来のぱれっと」をどう描くのか、より深い議論を進めていきたいと思ひます。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと ▶

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。昨年は開放日の再開や久しぶりとなるプチバカンスの開催を経て充実した1年となりました。皆さまには日頃からたくさんのご支援ご協力を賜り誠に感謝しております。ありがとうございます。2024年はどんな年になるのか今からとてもワクワクしております。今年にはさらにクラブ活動の再開やイベントへの参加、開放日プログラムの充実化などたまり場の活気を取り戻していきたいと考えております。ボランティアとして関わってくださっている方々をはじめたくさんのご尽力をいただき、たまり場ぱれっとがより楽しい居場所となることを願っております。皆さまのやりたいことや参加しやすい環境の実現のためにアイデアやご要望もお待ちしております。引き続きご支援ご協力のほど何卒よろしくお願ひいたします。(職員 武井琴美)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと ▶

新年早々穏やかな天候とは裏腹に、能登半島の震災に羽田空港での航空機接触事故と心を痛めるニュースが飛び込んで来ました。この原稿を書いている今も被災地では救助活動が続き、先の見えない避難所生活を送っている人がいます。温かい食事や寝床、余震に怯えることのない日常が一日も早く訪れることを願うばかりです。そんな事もあり個人的には家族や親しい人と共に過ごせるありがたさを改めて噛み締めた年明けとなりました。

おかし屋ぱれっとは今年39年目、工房ぱれっとは11年目を迎えます。コロナが明け毎朝9時前に皆が続々と通所し、夕方に和気あいあいと帰っていく光景もすっかり当たり前となりました。この当たりの毎日も、一人ひとりのやさしさやゆずり合い、ゆるし合いと感謝で成り立っています。これからもこの場所を守り、未来に繋げていきたいと心新たにしています。(所長 玉井七恵)



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

新年のご挨拶を申し上げます。

ホーム料理ボランティアのみなさま、入居者の方に寄り添い支えてくださった関係機関のみなさま、アルバイトのみなさま、ご家族のみなさま、大変お世話になりました。お蔭様でホーム入居者のみんなも充実した年を送ることができました。

しぶやホームでは料理上手なアルバイトの方が腕を振るって夕食づくりをしてくれています。えびすにも昨年、久しぶりに料理ボランティアの方が入り、みんなのリクエストに応じてくださっています。食を大事にしながら日々の暮らしに寄り添い支援を行なっているスタッフにとっても、食事作りに入っただけのことで、他の支援に余裕が持っています。決まったメンバーで過ごす居室空間に、人間関係の広がり暮らしの豊かさが育まれています。（施設長 相馬宏昭）

ぱれっとインターナショナル・ジャパン（PIJ）▶

新年のご挨拶を申し上げます。

スリランカに引き続き、ネパールカトマンズでクッキーを媒体に就労支援を行なう団体に事業ノウハウの協力を行なうため昨年7月に出張しました。そのPCBRの代表がこの1月に研修に来日しています。ぱれっとが立ち上げたスリランカ Palette と大きく違うところは、29年の歴史を持つ組織という点です。運営母体がしっかりしていること、地域とのネットワークができてるのは強みと言えます。生産性を上げ売り上げを伸ばしていくこと、製品の安定と販路拡大、組織マネジメントが課題となります。同じ目的を持った両組織が、言語を超え文化を超え理念を共有することがぱれっとにとっても大きな財産となります。オンラインを通じ、両国のスタッフと通所員が交流できることが非常に楽しみです。PIJは海外とのつながりから、スタッフやメンバーに還元できる価値を見出していきます。（PIJ 代表 相馬宏昭）

ぱれっとの家 いこっと▶

新年のご挨拶を申し上げます。

昨年3月に立ち上がった渋谷区居住支援協議会は、高齢の方や低所得者層、障がいのある方など、住宅確保要配慮者が安心して地域で暮らせるよう、不動産関係や居住支援法人と連携を深めていく会です。住居確保に向け契約など社会的なハードルが高く支援を必要としている人たちの専用住宅2部屋をいこっとに作り、家賃補助（月額4万円）が行政から出るようになりました。

それぞれが育った家庭環境や生活習慣が異なる人たちが一つ屋根の下で共に暮らすには、相手を許容する心のシェアが求められますし、周りへの配慮も必要です。障がいある無しに関係なく、「人として」の姿勢が試される共同生活の場となっています。設立14年目を迎えいこっとが大事にしてきた多様な暮らし方の融合性が時代とともに変化してきています。恵比寿という都会ならではのドライな地域性、シェアハウスとして問われる1年になります。（理事長 相馬宏昭）